

東北復興 PSW にゆうす

東日本大震災から3年目となる年が明けました。「つながり」と「共に生かされた命」を慈しみ、苛酷な事態にあってもこそ真価を発揮できるPSWであり続けましょう。那須くんという山形のPSWがいます。大震災から1ヶ月経った4月、山ほどのカップ麺を背負った那須くんが目の前に。「仙台の基地に。いま僕のできる支援者支援です」と。まだ市内のスーパーの商品棚が空っぽだった時期でした。この1年10ヶ月余、歴史的災禍にあっても誇り高く耐え忍び凜として歩み続ける東北の仲間。被災地へと駆けつけ支援活動に参画した多くの仲間。現地に向かうことが叶わない隔たりを抱え、だからこそ「私のできることを」探し求め、想いを寄せ続けるもっと多くの仲間。仲間が結集する復興支援本部は悲しみを希望に変えるお役目をいただきました。未来を信じる祈りを込めて「明るい年となりますよう」。 本部長代行:小関 清之

「遠い九州沖縄ブロックですが、しっかり応援しとります！！」

九州沖縄ブロックの方々から心温まるメッセージが届きました。今回はこのメッセージの紹介を中心にお届けします。



日本精神保健福祉士協会 常任理事(沖縄県)

高石 大

東日本大震災から1年8ヶ月、震災直後の連日繰り返されていた報道が次第に少なくなり、原発問題や政局の問題などにかき消され、ここ沖縄では被災地の現状は正確に把握できなくなっているように思えます。私は何のお役にも立てなかったと今でも心残りですが、昨年5月末に南相馬市に支援に入らせていただきました。面談させていただいたご家族はいま、どのように過ごされているのだろうか考えることがあります。いまでこそ言えるのですが、自分の未熟さ、弱さとの対峙でもありました。たった数日の支援活動でありましたが、そのご家族のことが頭からはなれない状態が続きました。しばらく経った頃、宮城県岡崎支部長が私の職場を訪ねてきてくださりました。このことはモヤモヤとした気持ちでいた私にとって救いにもなりました。

復興という言葉を目にしたり、耳にしたりする機会が増えましたが、その地に暮らす方々にとって復興という言葉がどれほどの重みを持ち、そして険しい道のりであるのか。私達の想像を超えることであろうということを十分に噛みしめつつ、それでも眼を背けずにいたいと思います。遠く離れた沖縄ではありますが、これからもできるかぎりの活動に取り組んでまいりたいと思います。



日本精神保健福祉士協会 理事(福岡県)

今村 浩司

遠い九州沖縄ブロックではありますが、いつも忘れることなく東日本のことを思い続けております。また、今なお困難な生活を余儀なくされている被災者の方々におかれましては、いち早くのご再興ご躍進を心よりお祈り申し上げます。

長い長い道のりかもしれませんが、一つの道を歩む時に、ある時は「一歩」進めて、あるいは「一歩」も引かず、しかし「一歩」譲って、たまには「一歩」踏み出し、人と環境と、そして時と状況との関係性の中で、様々な変容を遂げながら、その「一歩」とうまく付き合って頂きたいと思います。

本部長代行の小関さんはじめ東日本のみなさん！九州沖縄ブロックは、東日本をしっかりと応援しておりますバイ！

☎復興支援本部 「ほっと phone」

TEL070-6450-2615 小関本部長代行がお応えします。お寄せいただいた声やご意見は、復興支援に生かしてまいります

☆メッセージにあるイラストは、各県の県花です☆

沖縄(デイコ) 福岡(梅) 鹿児島(深山霧島) 大分(豊後梅) 熊本(リンドウ)



福岡県支部長 大山 和宏

この時期、各地で地域での文化祭などのイベントが催されています。先日、ある催しの東北の特産品が販売されているブースで、宮城のずんだもちを見つけ思わず買い求め懐かしい味とともに数年前の宮城大会を思い出しました。正直、遠い九州にいと東北の現状を映像で見る機会しかなく、日々の生活でそのことを感じることは少ないです。しかし、復興には長い時間と道のりが必要だと思えます。ずんだもちがもたらす復興支援、これからも東北の味をいただきながら、東北の復興応援しています！



日本精神保健福祉士協会 理事(鹿児島)

鶴田 啓洋

今年の3月、二日間被災地を訪れました。大変な状況にもかかわらず温かく迎えてくださったみなさんの笑顔が今でも忘れられません。

復興はまだまだこれからですが、いつも心から応援しています。できることは少ないけれど、九州の熱い熱いパワーを今後も送り続けます！



熊本県支部長 今野 えり子

今年6月熊本にて、第48回社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会並びに第11回日本精神保健福祉士学会学術集会を開催致しました。この大会は東日本大震災の影響による福島県での開催辞退を受け、本県開催も復興支援の一助と位置づけ、急遽開催約1年前に決断しました。全国各地からの励ましとご協力を頂いたことを本当に感謝しております。全国大会の東北開催の実現と、復興を強く願っております。



大分県支部長 三好 陽子

3月11日、地震の一報を受けたとき、真っ先に思い出されたのは、以前協会の研修で訪れた岩手県のことでした。地元会員の方々の暖かく親切な人柄に支えられた研修で参加者の東北の方々との交流も思い出深く、東北を身近に感じられるきっかけにもなりました。

この一年半の間、大きな変化を余儀なくされ、その対応に追われた被災地で活動される皆様のご苦勞を思うとき想像に余りあるものがあります。私自身、直接被災地へ出向くことがかなわない状況を心苦しく感じる日もありましたが今できる支援を継続して行っていくこと、またそれを地元で伝えていくことを役割として丁寧に続けていきたいと思えます。

♪まだまだ多くの声が寄せられています。紙面の関係上、次号以降に紹介させていただきます♪



♡～復興支援活動募金報告～♡

1,864,867円 (H24.4月～12月21日現在)
皆様からお預かりした真心のこもった募金は、復興支援に携わる仲間への支援に役立ててまいります。引き続きご協力のほど、よろしく願いいたします。

☆ひよっこりひょうたん島のモデル復活！☆

平成24年12月13日、島の灯台に再び灯が灯りました！人形劇「ひよっこりひょうたん島」のモデルとされる岩手県大槌町の蓬萊島。＼(〇)/

「砂時計をイメージし、震災で犠牲になった人への鎮魂の思いと明るいま未来への願いを込めた」とデザインした町民の岩間さん。

「復興への時を刻んでほしい」と話した。

☆皆さんからのメッセージを募集します☆

本誌では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。全国どなたからのメッセージでも構いません。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。本誌へのご意見・ご感想も大歓迎です。本紙面にてご紹介させていただきます(個人情報は掲載いたしません)。お届け先は下記復興支援本部へのFAXもしくはE-mail (office@japsw.or.jp)にてお願いいたします。*題名に「PSWにゆうすについて」とご記入をお願いします(・_・)

第3号 2013年1月15日発行

発行：社団法人日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援本部

〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル7F TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993

復興支援本部 URL: <http://www.japsw.or.jp/f-honbu/>